

金山 松前所在島の内センケン山、クンヌイ山、ハホロ山等諸書に載たれども、皆是下金といふものにて、土砂の内に交りたる砂金なり、今はなし、又ウラカハといふ所に金山見ゆ、是も掘たらば出べきと思はる、其外エリモ邊ラツコ島等にあり、又深山に有べき歟、未開の大國なれば、明細に探索に及び難し、時を得て達すべし、

銀山 古來より銀山の沙汰はなし、カワクシ山、ユウラツ山等にあり、西蝦夷地は深山多し、依ておくゆるしけれども、予^{○徳内}未到なれば風説は擧がたし、

銅山 東蝦夷地シベツの奥山にあり、箱館在の山に有、

鐵山 箱館在の大森村石崎村等にあり、その外諸所に多し、

鉛山 見市村の春ヲボユ嶽最上たりといふ、先年江指村の堀たる時に、一ケ年に三百箇程出來たり、其外赤神村江枝村等にも有也、

黃銅 マツノイヲ、ストロフといふ島にあり、此金日本にていまだ不見、生れながら金色なる銅にて、真鍮の柔かなる様なりと、赤人涉海して予に委細物語せり、

餘糧 エトロフ島、シヨツチキヤといふ所にあり、貯置て時々糧に用ひ、食事とす、色白く餅のごとくにて、味ひ淡く、此島に渡海せし時、友船に分れ、米味噌もなく、草の根を焚て此土をいれ、食事とせしに甚かろくたべよき也、

碗青 シエメン島より取來り、石にて珍らしき品なるに付て、目利者衆評して、佛頭香と名付、瀬戸物を焼に用ゆる土器の模様を畫く繪の具なり、

硯石 箱館村の先石崎村まろゝ濱といふ所へ一圓にあり、又此山陰にヌルイ川といふ川筋にあり、江戸細工人に彫せて、予所持するものなり、日本へ運送易し、

鐘乳石 西蝦夷地大田山の崎地藏安置の岩窟にあるといふ、